

くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 〒501-61 岐阜県羽島郡川島町 Phone: 058689-2101



66,249人のみなさん

ようこそ！「目で見るくすりのあゆみ」展へ！

約1ヵ月にわたって、東京・上野の国立科学博物館で開催された「目で見るくすりのあゆみ」展には、44,208人の皆さんにご来館いただきました。

とくに、春休みが始まったこと、上野公園がお花見の季節であったこと、そして、科学博物館が修学旅行のコースに入っていることもあって、このうち14,227

人も児童・生徒のみなさんに来ていただけたことを、たいへんうれしく思っております。

これで、昨年秋のくすり博物館での特別展に来館された22,041人の方と合わせて、66,249人の方々をこの特別展にお迎えすることができました。本当にありがとうございました。

国立科学博物館で使用のポスター



よく効く、楽しい“展覧会”です。

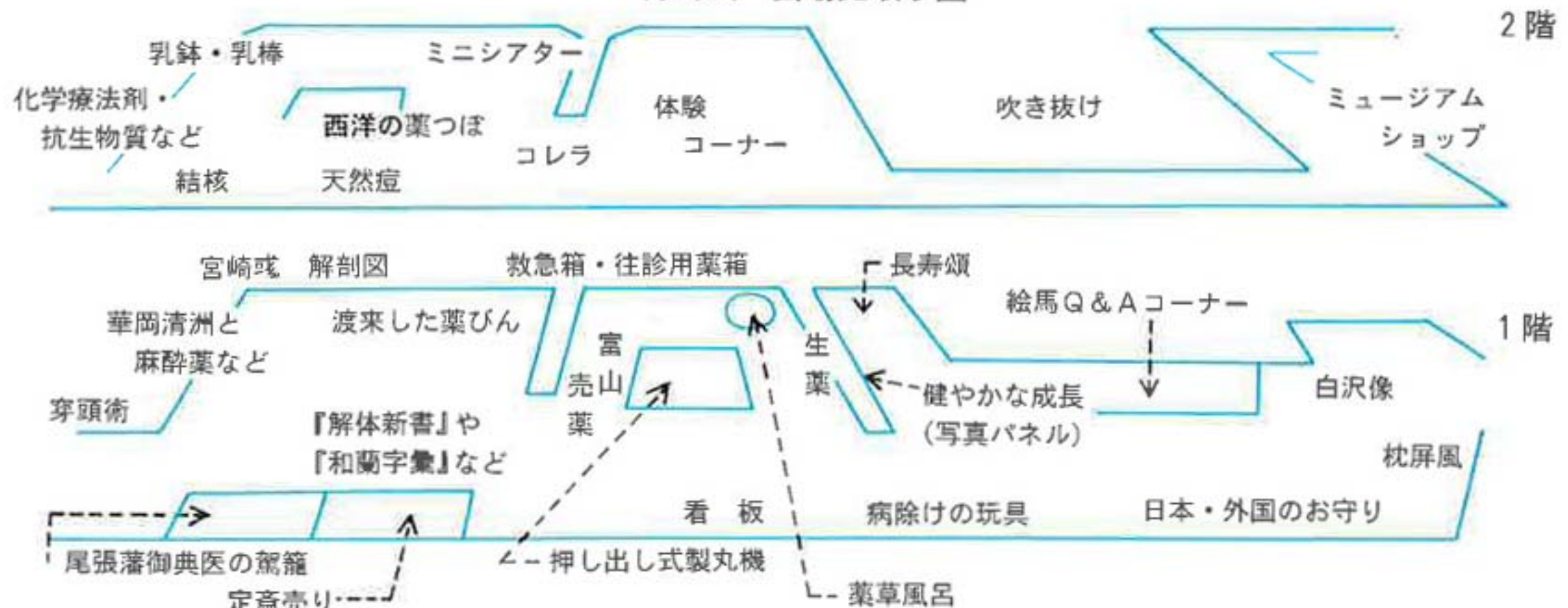


くすり博物館で使用のポスター

目で見るくすりのあゆみ

【期間】 1992年3月7日（土）～1992年4月5日（日） 【主催】 国立科学博物館・内藤記念科学振興財団
 【協賛】 エーザイ株式会社 【後援】 文部省、厚生省、東京都教育委員会、英国大使館、英国・科学博物館、ウェルカム トラスト

特別展 会場見取り図



連日大にぎわいでした

ではここで、写真で会場の様子を振り返ってみましょう。44,208人といえば、くすり博物館が1年にお迎えする来館者の人数とほぼ同じです。それだけの人が、わずか1ヵ月の間に特別展の東京会場へいらっしゃっ

たのですから、会場は毎日大にぎわいでした。お天気がよい日には、近くにある上野動物園にやってきた親子連れや、小学生の仲良しグループがたくさん来てくださいました。雨の日には人数こそ少なめでしたが、

むしろゆっくり見ることができるとあって、年配の方やカップル(!)が多かったようです。

一日の来場者数は最高で3,500人を越え、少ない日でも約500人を数えました。



▲会場入口で白沢とマカーラがおむかえ。



▲「この絵馬は何かな？」絵馬Q&Aコーナー。



▲丸薬づくりを粘土で体験。「むずかしいなァ」



資料を借用した英国・科学博物館の学芸員・メイフィールドさんと藤田館長▶

▼係のお姉さんに紙風船の作りかたを教えてもらいました。



人気の高かった病よけのおもちゃのコーナー▶

丸薬師

中沢富士男さんに聞く

1. 修業時代

修業時代ってのは、親方の弁当持ちながら、親方の仕事振りをずうとながめているという状態から、まずはじめてゆくわけ。大体そういう仕事の流れがわかったら、一番大切な生地を、薬の性質を知るために、一ヵ月後に初めてさわらせてもらえるわけですね。見ていながら少しずつ自分で切る練習だとか、おいおいさせてもらっていく。別に手を取ったり、足を取ったりしては、絶対、教えてくれませんから。今まで親方のそばでずうと見ていたものを、自分で感じながら、見よう見まねで、ま、やってく。自分がやっぱり会得するまで何べんも、練習させて頂く。そうしながら、三年間位自分でやるわけですね。そういう過程を終わって、その時分としてやっと半人前なんです。

丸薬師とは、昔ながらの方法でくすりを作る職人さんのことです。特別展の東京会場では、この丸薬づくりに40年近くもたずさわってきた中沢さんに実演をお願いしました(オープニングセレモニーのときと3月7・8・20・21・22日)。中沢さんが実際に機械を動かし始めると、みるみるうちに見物の人が集まり、質問がつきつきと寄せられます。「いつからこのお仕事を?」「なにかコツのようなものは?」中沢さんはそのひとつひとつに答えながら、けしつぶのように細かいながらも粒のそろった丸薬をまるで魔法のように作りだしていました。この中沢さんに国立科学博物館の原田紀子さんがお話をうかがいました。その一部をご紹介します。

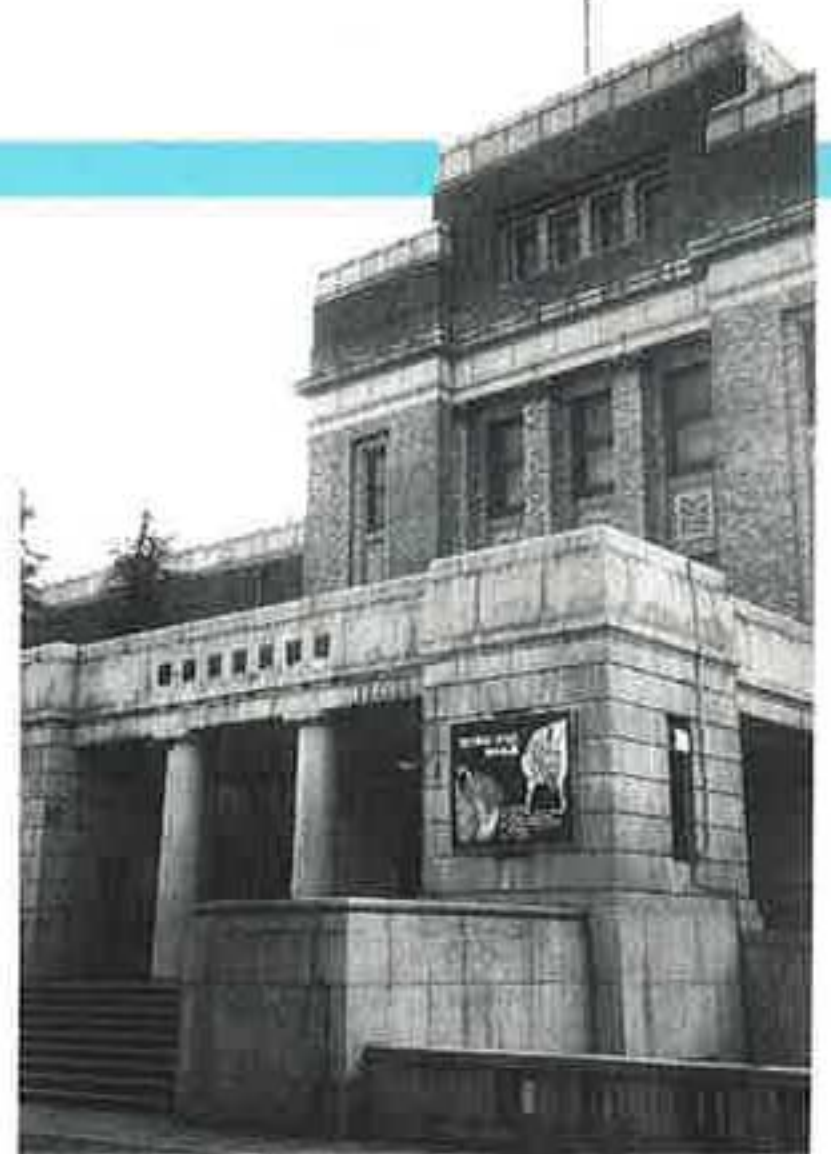
それから、武者修業的な感じで、親方のところを離れまして、親方の口ききでメーカーへ入れてもらえる訳です。見習兼半人前という感じで。そこで2年、3年と、自分の腕をみがくために、少しでもいいとこ、大きい会社、大きい会社とわたって10年ほど。二十五、六位で、回りの人から、丸薬師と呼んでもらえる。私達のこういう商売というのは請負です。どいだけしてどいだけの加工賃という職業です。お客さんがその時になってはじめて何年やったかという風にして聞かれたときに、いや10年でございます、と。そういった時に、やっと一人前の、世間並みの、工賃を頂ける。そうやってしまえば、まあ、しめたものだと思いますね。



▲ミュージアムグッズはいかかですか？ 笑顔で対応したスタッフの面々。

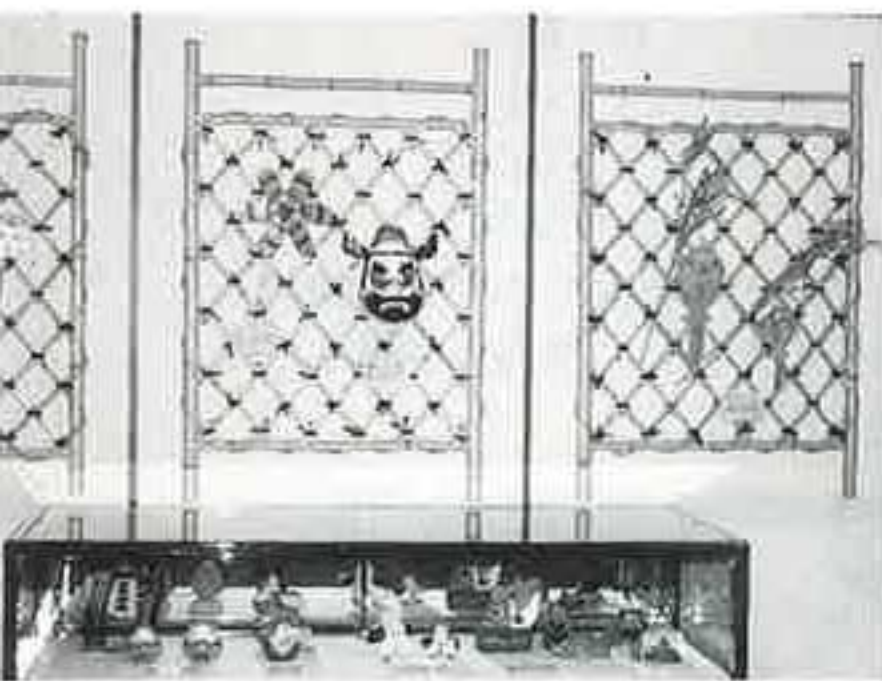


▲抗生物質の歴史がよくわかります。



▲会場の国立科学博物館。特別展の大きな看板も見えます。

「どうしたらもっと早くジャンプできるかしら？」全身反応測定器はみなさん真剣。▶



▲こんなにたくさんの荷物を東京へ持ってきました



2. 丸薬づくり

この製丸器は「立ち」って言います。荒縄で全部しめてあります。くぎ一本使ってないんです。富山の人達は皆立ってやるんですよ、昔から。座ってやる所もあります。

生地を入れるところは、私達は枡と言います。この枡は表と裏の穴が全部違います。大きなものをつくりたい場合は大きな穴を使います。

こじ棒を足かけで操作して、生地を枡の穴の中から少しずつ出します。腰の回転でやってるんです。手で仕事するとだめなんですね。穴から出た生地を長刀で切って下板に並べていきます。たばこ一本入る隙間がいいんです。枡の穴が50ほどありまして、25から30列が一番仕事しやすいので一回1500前後ですか。

上もみ板をのせて、丸めます。もみ板は全部杉です。杉の薄っすい板を三、四枚貼り合わせたものを使用してるんです。一枚物でしたらどうしても反る恐れがあるもんですから。

丸めた玉は自然乾燥が一番いいんですね。二、三日自然乾燥してから、毎日、毎日、丸薬を見ながら、手返し、手を入れてかきまわして、乾燥させてく。ほっ

たらかしとくと、やっぱりかびがはえてしまいます。常に手を入れて見てやる。花を見て、言葉をかけたりなぜやるとき綺麗な花が咲くっていいですね。私達も毎日、毎日、丸薬を作ったら、必ず言葉では表さないですけども、そういう気持ちで丸薬の手入れをしています。

出来上がった丸薬を見ると、手作業ですのでやはり一人、一人の、あの方の仕事、この方の仕事って、その人の人格が丸薬のその輝きに出てるわけですね。ええ、師匠のつくった薬と、私のつくった薬と、見習いのつくった薬ともう全然、玉の流れが違います。同じ板の上ののせてころがしても、師匠のつくる玉は本当の真ん丸で、まっすぐころがっていきます。素人さんはわからないでしょうけど、私達はわかるんです。

自然が一番丸いのは真珠でしょ。私達がつくった丸薬を真珠に近づけようと、一所懸命努力するわけなんです。

■ 50万人目の来館者を

お迎えいたしました

40万人目をお迎えしてから3年もたたないうちに、もう50万人目達成のニュースをお知らせできることをうれしく存じます。

50万人目は、平成4年2月18日にご来館の岐阜県洞戸村の神山（こうやま）清美さん（49）。お嬢さんの貴久子さん（23）と義兄の康男さん（50）が前後賞。「ふと思いついて」いらっしゃったのが幸運につながりました。

（写真は左よりエーザイ川島工園の大前工園長、記念品を手にした康男さん、清美さん、貴久子さん、藤田館長）



■ あちこちで紹介されました

数年前からくすり博物館に注目してくださる方が増えたのか、取材があいつぐようになりました。平成2年後半で11件、3年には27件、そして4年になって既に24件もの取材を受けています。一般の雑誌での博物館紹介のほか、最近では企業博物館としても注目を浴びています。

特に昨年からは、開館20周年記念特別展のため、別に新聞29件、雑誌2件、TV・ラジオ7件の取材ラッシュでした。NHK岐阜の番組ではスタジオでの生放送に学芸員が出演し、また琉球放送のラジオ番組では、電話での生放送中のインタビューもありました。



とびっくす



■ 新館長の就任です！

藤田孟前館長の定年退職にともない、平成4年4月1日付けで、岩井鑑治郎（こうじろう）新館長が就任いたしました。岩井館長は、エーザイ医学情報部の出身で、就任にあたっては、「くすり博物館創設時のハマネ医学薬学部長の言をもじると、くすり博物館は「劇場ではないけれどもゆったりと楽しませてくれるところであり、薬局ではないけれどもくすりについて情報を教えてくれるところである」ということになります。私は、より身近な博物館になるよう、この言葉の最後のところ、つまり現在の薬が医薬の歴史の中でどんな位置にあり、今どのように作られているものか—をより深く理解できるような展示に、力を入れたいと思います。」と抱負を語っています。

新しいミュージアムグッズを紹介しませうね！



出てこい！ くすりやさん

くすりやさんの姿がバラバラに描かれた紙を折ったりたたんだりして、絵を完成させて遊ぶおもちゃで、1枚50円です。一度1枚の絵が完成したら、また元に戻してのスタートです。さあ、あなたは8人のくすりやさん全員に会えるかな？

～お知らせ～

■ 次回の特別展は？

8月上旬より、ボタニカル・アートの特別展を予定しています。ボタニカル・アートは、西洋で発達した植物の精密画で、薬草も描かれました。今回は、日本のボタニカル・アート・江戸時代の本草（ほんぞう）学の本もいろいろご紹介いたします。

夏休み 教室

…の季節が今年もやってきました!! 今年以下は以下の予定で計画しています。夏休みの宿題を早めに終わらせてかけつけてください。きっと夏休みのいい思い出になりますよ。

日時

8月23日（土）・24日（日）

各日 定員15名

（小・中学生）

何をするかはお楽しみです。案内をご希望のかたは、担当の伊藤までご連絡ください。



■ 資料・図書の寄贈・寄託者 ご芳名 ■

ありがとうございました

伊達達夫 伊藤隆介
 宇都宮市保健センター 大原政子
 小角薬局 片桐平智 加藤栄治
 亀田利太良 喜多島美江子
 岐阜県衛生環境保健予防課
 斎藤文雄 三戸 稔 (株)セラック
 仙洞田清司 陳 玉麟 戸毛敏美
 中村陽一 人見芳弘 藤田 孟
 守田治兵衛 安田謙人 山中龍宏
 吉田尚利 梁 森 (中国国家自然
 科学基金委員会) (敬称略)

館長 岩井鑑治郎 学芸員 稲垣裕美(編集担当) 学芸員/司書 野尻佳与子・伊藤恭子 庶務 川瀬麻起子
 説明員 高橋千寿 薬用植物園 白井英夫 顧問 青木允夫・逸見誠三郎
 内藤記念くすり博物館 9:00~16:00 開館 月曜・年末年始(12/28~1/8) 休館